

わたしは、道であり、真理であり、命である。(ヨハネ福音書14の6)

I am the way, and the truth, and the life.

この簡潔な表現のなかに、私たちに必要なすべてがある。「道」がわからない、これはいつの時代にも誰でもが持っている問題である。私自身もキリスト教の真理を知るまでは、歩むべき道がわからなくて、苦しんだ。それは大学に入学していろいろの学びをしても一向に解決できなかったし、友人や大学の先生たちもそのようなことを全く語らなかった。

自分の本能や欲望のままに生きていくのが、自分の道だ、というような主張も昔からある。こういうことは、体が元気で、老年の弱さを経験していない人のいうことである。ひとたび病気や事故のために体が不自由になったり、年老いてくると、そうした自由気ままな生活は当然できなくなっていく。それゆえに、こうした道は必ず破綻する道なのである。

キリストは愛のお方であり、しかも復活して神と同じ存在となっておられるから、キリストを信じてキリストに結びついて生きていくときには、その道は消えることがない。そして病気や事故にあつて苦しみのおときは、いつそうその道に歩むことを強められる。死を迎えて、この道は、永遠の平和と清い国である神の国へと通じている。

永遠に変ることなき真理、こんなものはあるのか、という疑問を多くの人は持っている。これも、原発大事故で明らかになったように、学者や政治家、裁判官、マスコミなど、実にさまざまな領域の人たちが、原発に関して間違っただけを言ってきたのをみてもわかるように、いったいどこに揺るがない真理があるのか、何を正しいと信じていいのかということが切実な問題として浮かびあがってきた。

これは原発だけの問題でない。この世界のいろいろな出来事、自然の姿などがどんな意味を持っているのか、それらに関しての真理は本来誰も持っていない。あとから啓示されて少しずつ悟るのである。人間の能力はきわめて限定されていて、例えば、明日自分の身に何が生じるかも誰一人予見できないし、自分の心や他人の心に何があるのか、それもわからない。

永遠に変わらない「真理」があるのかないのか、これは人間にとって最大の問題である。そうした真理があるのなら、それに従って生きるということが最も重要なことになるし、真理そのものが持っている祝福の力を受けることになる。自然科学的な真理、学問的な真理も重要であるが、病気や家族の問題などで耐えがたい苦しみにあるとき、こうした学問的な本を誰が読むだろうか。大多数の人たちが、こうした学問的真理などまったく無縁であった古代社会から、人間は霊的な真理によって生きてきたのである。それを最も簡潔に表したのが、キリストこそ真理 ということである。この真理こそは、私たちが死の淵に近づいても、なお私たちを導く力を持っている。

次に言われている「命」であるが、これが一番大切だという思いは、だれでもが持っているであろう。しかし、その大切な命は、またとてももろく、一瞬の事故で失われてしまう。しかし最も価値あるもの、それは何があつても壊れないようなものでなければならない。このことから、私たちの普通思っている肉体の命以上のものこそが、本当の命なのだということが浮かびあがってくる。それこそ、ここで言われているキリストの命、神の命である。宇宙を創造し、いまも支えておられ新たなものを常に生み出している神の持つておられる命であるゆえに、それは永遠である。

この永遠の命を受けることこそ、私たちの目標である。キリストが十字架にかけられて死なれたのは、私たちに道を示し、真理とは何かを示すことであり、また私たちにいかなる事故や病気、災害などがあつても、決して壊されない永遠の命を与えるためなのであった。そのために妨げとなっている私たちの心の罪をぬぐい去るということ、それがキリストの十字架での死の意味なのである。



このハクサンチドリは、中部地方の高山から北海道といった寒い地方の山に咲く花です。最初は、白山(\*)で多いとされたことと、千鳥が飛んでいるのに似ていることから、この名前が付けられています。花色は、赤紫色です。

葉が斑入りのももあり、右下のは、左の花とやや離れた場所に咲いていたものです。これはウヅラバ ハクサンチドリ。(鶉の羽のような模様が葉にあるから)



(\*) 白山の山域は、石川・福井・岐阜・富山の4県にわたっている。標高2,702m。日本百名山、花の百名山、日本3名山などの一つとして有名。

これは、ランの仲間で、一般の人には、ランというと、胡蝶蘭(コチョウラン)やシンビジウムのような園芸店によく見られる洋蘭を思い出す人が多いと思います。これら洋蘭はもともと熱帯地方で見いだされたものをもとにして作られています。

日本では野性状態でのランは、採取されてしまうことも多く、なかなか見られないものが多いのですが、最も身近なランの仲間は、芝生や空き地に見られるネジバナです。

この写真のハクサンチドリはシベリア地方のような、氷点下数十度になる地域にも咲くということで、標高も高くて厳しい寒さにもかかわらず、このような美しい花はそれに耐えて生き残ってきたのに驚かされます。

このような野草は外見は弱々しいものですが、他方では、氷雪で何カ月も閉ざされているようなところにあっても、枯れることがないという強靱さを持っています。

その不思議な強さとともに、美しさと清さを持っており、それが人の心を惹きつけるのです。

神は、野草やその他の植物にはそれぞれに、弱さのなかにも不思議な強さを与えています。私たち人間も、さまざまの点で弱さを持っていますが、厳しい試練にも耐えるためには、神に求めて、神からの力を受けないと、植物とちがって、悪の攻撃によって内なるよきものが、枯れてしまうのです。

それゆえに、主イエスも、「求めよ、そうすれば与えられる」(マタイ福音書7の7)と言われたのです。

人間はこうした植物の清い美しさに接することで、神の国の美や清さを知らされ、霊的な力とともに清めをも求めるように導かれます。(写真、文ともT. YOSHIMURA)